



Top Message

「プラットフォーム+ ポートフォリオ」事業 (ハイブリッドモデル)への 戦略的シフトにより今後の成長を 加速してまいります

代表取締役社長 CEO リード・パトリック

Q 2023年12月期の振り返りについてご説明をお願いします

すべての利益項目において期初の業績目標を達成することができました

2023年12月期は、創薬開発事業(ペプチドリーム)では下期にかけて複数の新規契約の締結、放射性医薬品事業(PDRファーマ)では既存製品の適応拡大やシェア拡大による着実な成長を重ね、グループ全体での売上収益は約287億円、Core営業利益は約71億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は約30億円での着地となりました。Core営業利益(進捗率107%)、営業利益(同108%)、親会社の所有者に帰属する当期利益(同113%)において、期初の業績目標を達成することができました。

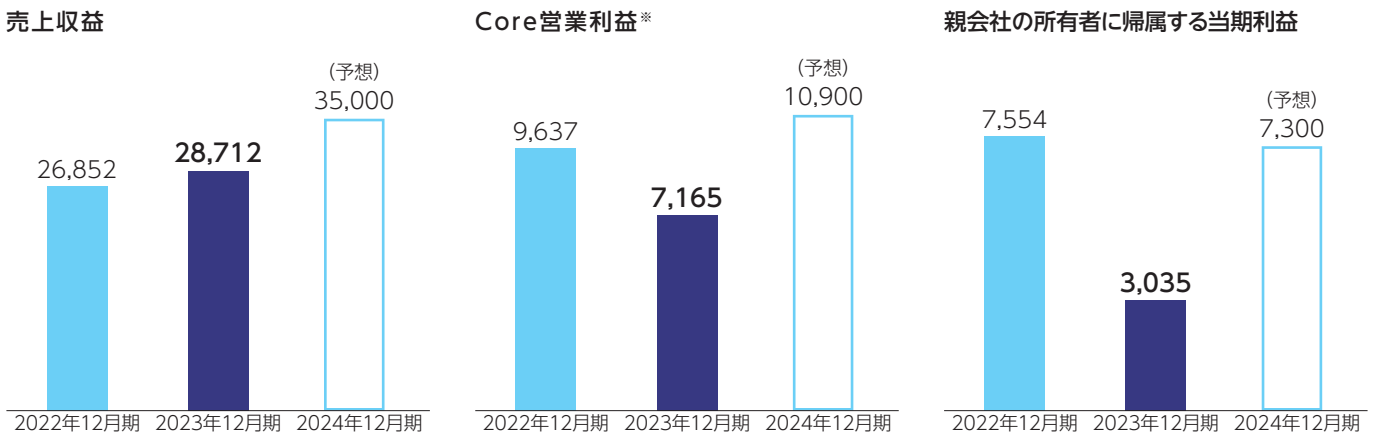
また、2023年12月のBristol Myers Squibb社によるRayzeBio社の発行済み全株式を対象とする公開買付の実施に関する発表に伴って、当社が保有するRayzeBio社株式の時価評価額が増加し、増加分をその他の包括利益として計上いたしました。その結果、当期包括利益において、対前年比で約32%成長と過去最高益を大きく更新する結果となりました。

創薬開発事業では、RI-PDC領域が引き続き重要な成長ドライバーとなっています。Genentech社との複数の創薬ターゲットに対する新たなRI-PDCプログラムの開始(2023年9月)、Novartis社と進めているRI-PDCプログラムにおいてGLP安全性試験開始にともなうマイルストーン達成(2023年10月)等、RI-PDC領域への投資が着実に実を結びつつあります。

放射性医薬品事業では、新型コロナウイルス感染症の取扱いが5類に移行した2023年5月以降も医療機関での検査数回復には時間を要しており、市場環境としては「向かい風」の状況が続いています。そうした中でもSPECT製品の適応拡大、PET製品のシェア拡大、医療デジタル関連製品の拡充等を一つ一つ積み上げることで、2022年3月に経営統合して以降2期連続での対前年比売上成長ならびに黒字化を実現しています。

2023年12月期 連結業績概要(IFRS)

(単位：百万円)



* Core営業利益は営業利益から企業買収に係る会計処理の影響及び買収関連費用、有形固定資産、無形資産及びのれんに係る減損損失、損害賠償や和解等に伴う損益、非経常的かつ多額の損益、個別製品又は開発品導入による無形資産の償却費を控除して算出しております。

Q 当社の2つの戦略領域である、放射性医薬品(RI)領域とNon-RI領域において、今後は何が成長ドライバーになっていくのかについてご説明をお願いします

RI領域ではがん治療薬やアルツハイマー診断薬での製品拡大やパイプライン進捗、Non-RI領域では新規プログラムの拡大とともにパイプライン進捗に伴う収益増が成長ドライバー

放射性医薬品領域では、これまで診断薬を中心とした事業展開が中心でしたが、市場環境の変化を見据えて、今後は「治療薬＋診断薬」へと大きく戦略をシフトしてまいります。今後の成長ドライバーとしては、「一の矢」として既存診断薬の拡大、「二の矢」としてはアルツハイマー領域におけるPET診断薬事業の成長、そして重要なインパクトをもたらす「三の矢」としてはがん治療薬・セラノスティクス領域における製品ラインナップの拡大により成長の最大化を目指してまいります。また、日本国内で直接的な製品売上を拡大していくだけでなく、国内以上に大きな成長が期待されている海外市場においても、海外パートナーを通じたマイルストーンフィーや売上ロイヤルティの拡大を通じて市場機会を獲得していきたいと考えています。

Non-RI領域では、新規プログラムに関連した契約一時金について今後も継続的に裾野を拡大しつつも、今後の重要な成長ドライバーとしては、パイプラインの進捗に伴うマイルストーンフィーや自社開発品を含めた化合物導出による一時金等が収益増に貢献していくものと考えています。また、長期的には製品の上市による売上ロイヤルティを積み上げていくことでさらなる成長を目指してまいります。各プログラムの進捗や付加価値向上を通じてペプチド創薬のグローバルハブとしてのポジションを確立・強化し、これによって新規プログラム・パートナー先がさらに拡大していくという当社ならではの「価値向上サイクル」は当社の持続的成長において重要な基盤となります。

Q 成長の基盤となる研究開発機能の強化・拡大についてご説明をお願いします

CMOやCSOを迎え入れたことにより、パイプラインの拡充・進捗を加速してまいります

当社では、2010年頃はヒット化合物の探索までを自社で行い、その後の開発はパートナー先で担うというモデルを取っていましたが、現在ではヒット化合物の探索から前期臨床試験までを一気通貫で行えるよう研究開発機能を拡大してきました。2022年からは、研究段階から臨床段階へと移行させるトランスレーショナルリサーチ分野での経験が豊富な村上が当社CMO (Chief Medical Officer) に就任し、トランスレーショナル分野のチーム体制強化を進めています。

また、2022年には、国内での開発・製造・販売機能を有するPDRファーマと経営統合し、放射性医薬品領域において国内承認に必要な後期の臨床試験までを自社で実施できる体制を構築いたしました。これにより、放射性医薬品領域の自社プログラムの拡充や加速を自社の判断によって戦略的に行えるようになりました。これはPDRファーマと経営統合したことによる重要な事業上のシナジーと考えています。

2024年4月には、Dr. Christian Cunningham が当社Chief Scientific Officer (CSO) として就任いたしました。Dr. Cunningham は、Genentech 社に12年間在籍し、ペプチド医薬品部門のDistinguished Scientist & Directorとして、環状ペプチドをはじめ次世代の医薬品モダリティを開発することを主眼に、様々な専門分野や研究所に所属する研究者を部門横断的に統括する役割を担ってきました。創薬バイオロジー部門をリードするCSOとして、Dr. Christian Cunninghamが自社創薬プログラムおよび提携先との共同研究開発プログラムの創薬探索活動を統括していくことは、ペプチドリームグループのパイプラインの拡充・進展に大きく貢献するものと確信しています。

Q 放射性医薬品(RI)領域に注力している背景についてご説明をお願いします

がんに対する標的型放射性医薬品の領域でRI-PDC創薬のリーディングポジションを確立

放射性医薬品領域は、放射性核種を特定の細胞に選択的に運ぶ「キャリア」と組み合わせることによって、従来の放射線治療に比べてより選択的にがん細胞を攻撃できるという特徴があり、グローバル大手製薬企業が高い関心を示す領域となっています。最近では、Lilly社によるPoint Biopharma社の買収(2023年)、BMS社によるRayzeBio社の買収(2023年)、AstraZeneca社によるFusion Pharmaceuticals社の買収(2024年予定)と、放射性医薬品業界での企業買収が次々と発表されています。

当社は、早期からNovartis社やRayzeBio社と提携するなど、業界の動きを先取りする形で放射性医薬品領域に注目してきており、がんを対象とする標的型放射性医薬品の領域で、ペプチドを用いたRI-PDC創薬のリーディングポジションを確立してきました。

Q 中長期目標の実現に向けた今後の見通しについてご説明をお願いします

「プラットフォーム+ポートフォリオ」事業(ハイブリッドモデル)へ戦略シフト

現行の経営体制に移行した2017年以降、当初の4年間は、プラットフォーム事業を中心にパートナープログラムの拡大を通じて着実な成長を実現し、R&D機能の拡張やノウハウの蓄積を通じてペプチド創薬のグローバルハブとしてのポジションを確立してまいりました。

2022年にPDRファーマと経営統合した以降は、放射性医薬品プラットフォームとの融合による事業上のシナジーを最大化し、自社パイプラインの拡張・加速に軸足をおいたポートフォリオ事業との組み合わせによるハイブリッドモデルへとシフトしていくことで、今後の成長ポテンシャルのさらなる最大化を図ってまいります。

中期的には、グループ売上収益500億円の実現に向けて、放射性医薬品領域では、アルツハイマー診断薬の成長、がん治療薬における後期開発品の導入や早期の上市実現、またNon-RI領域ではPDCプログラムを始め、多くのプログラムで期待されるマイルストーンフィーや化合物導出に伴う一時金が成長を牽引していくものと考えています。

また、自社プログラムを含めた複数製品の上市が見えてくる5-7年の時間軸においては、上市製品に関連した各種マイルストーンフィーや売上ロイヤルティ等を収益成長のもう一段の加速につなげ、グループ売上収益1,000億円の実現に向けて着実に成長を重ねていきたいと考えています。

Q サステナビリティ(ESG)の取り組みとステークホルダーへのメッセージをお願いします

3つのバリューを柱とする10の行動指針(Valued Behaviors)を策定し人的資本経営を促進

サステナビリティへの継続的な取り組みにより、環境情報開示に取り組むCDPから「気候変動」に対する取り組みや情報開示に優れた企業として最上位レベルのリーダーシップレベルにあたる「A-(Aマイナス)」評価を2年連続で獲得いたしました。

また、ペプチドリームグループでは、重要課題(マテリアリティ)のひとつとして気候変動への取り組みを掲げており、CO2排出削減目標として2030年にペプチドリームグループにおけるScope1,2でのCO2排出量100%削減、Scope3では20%削減の目標を設定しております。それにともない、2023年には、パリ協定に基づく温室効果ガス排出削減目標である「SBT(Science Based Targets)」認定取得に向けて、認定機関であるSBTイニシアチブ^{※1}に対しコミットメント・レターを提出いたしました。

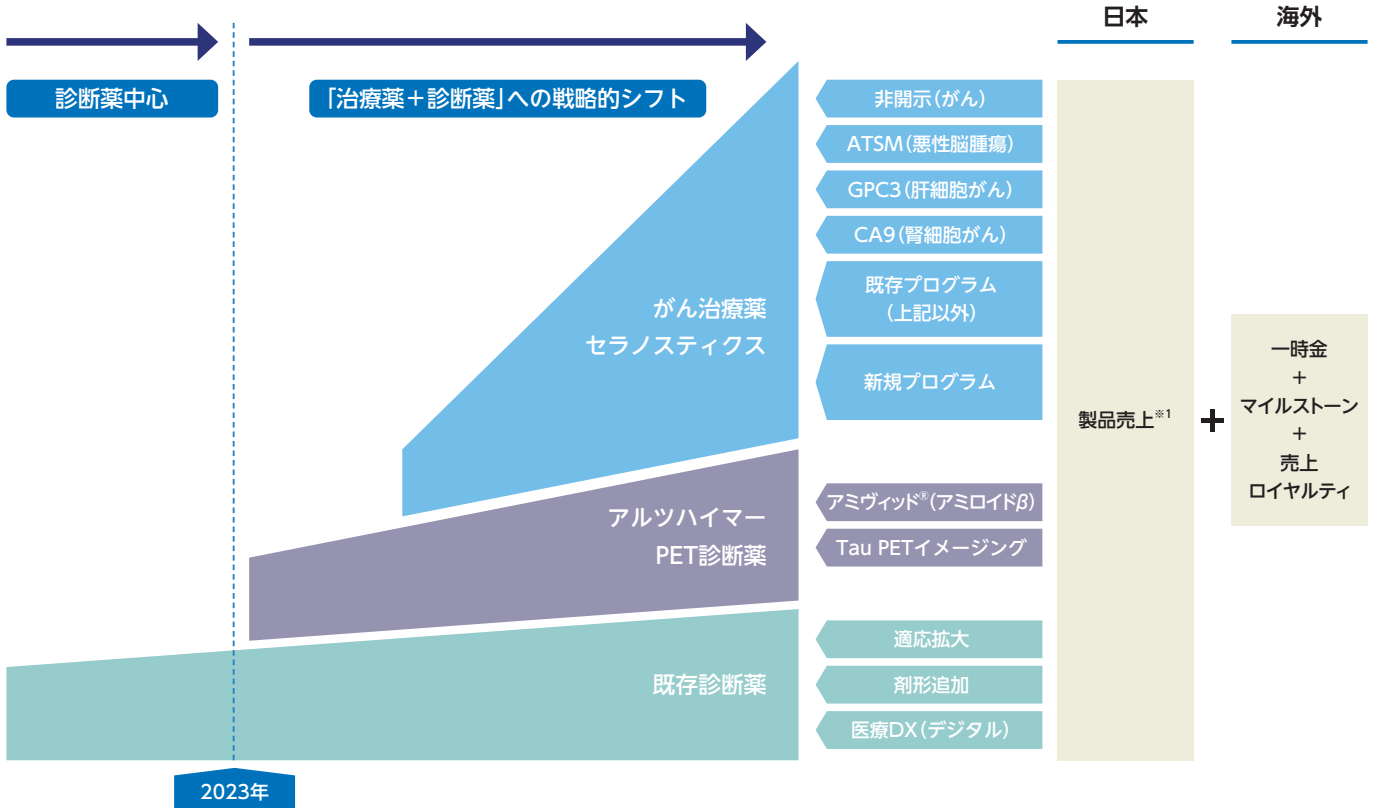
最後に、グループミッションである「医療のあり方や患者さんの人生に変革をもたらす次世代医薬品の創出」の実現に向けて人的資本は重要な基盤であると考えています。人的資本の価値をさらに引き出すために「高い専門性・情熱・誠実」の3つのバリューを柱とする10の行動指針(Valued Behaviors)を策定することで人的資本経営を促進し、コーポレートカルチャーとして行動指針が根付いた人・組織の実現を図ってまいります。

各種事業展開による成長はもちろんのこと、両輪であるサステナビリティについてもしっかりと取り組みを進めていくことは、当社の持続的な成長において必要不可欠であると確信しています。

※1 CDP、国連グローバル・コンパクト、世界資源研究所(WRI)、世界自然保護基金(WWF)による共同イニシアチブ。企業に対して「産業革命前からの気温上昇を最大でも2℃未満に抑える」というパリ協定の目標達成に向けて、科学的知見と整合した削減目標を設定することを推進。

成長ドライバー 放射性医薬品領域

がん治療薬、アルツハイマー診断薬でのパイプライン進捗が重要な成長ドライバー



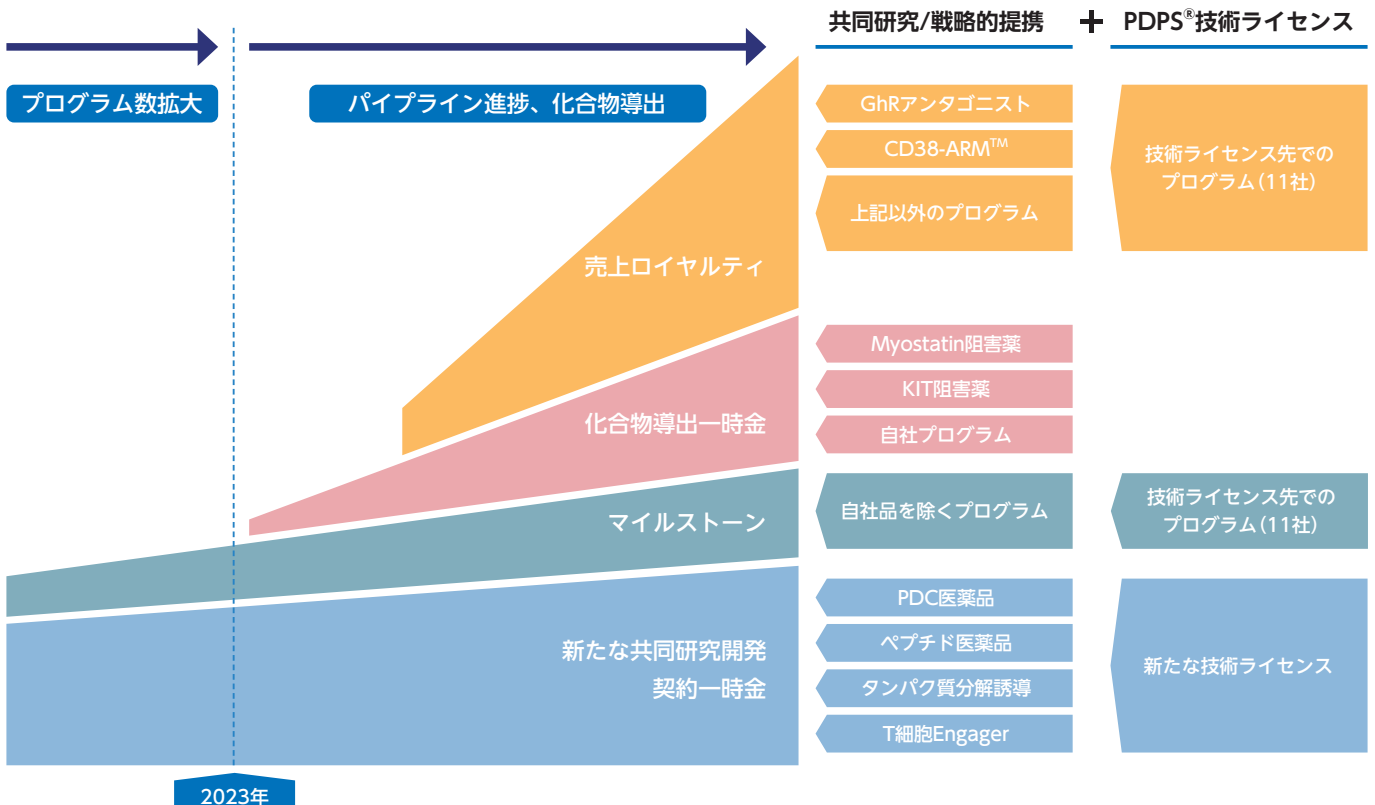
2023年

注：上記グラフは成長イメージを図示化

※1 既存プログラムの一部および新規プログラムについては日本国内での商業化について未確定

成長ドライバー Non-RI領域

新規プログラムの拡大とともに、パイプライン進捗に伴う収益増が重要な成長ドライバー



2023年

注：上記グラフは成長イメージを図示化

1 Genentech社との新規のペプチド-放射性核種複合体(RI-PDC)に関する共同研究開発およびライセンス契約を締結

2023年9月、ロシュ・グループ企業である米Genentech社との間で、複数の新たな創薬ターゲットに対するペプチド-放射性核種複合体(以下「RI-PDC」)の創製・開発に関する共同研究開発およびライセンス契約(以下「本契約」)の締結を発表いたしました。本契約に基づき、当社は独自の創薬開発プラットフォーム技術であるPDPS (Peptide Discovery Platform System)を用いて、RI-PDCの創製を目的としてGenentech社が選定する創薬ターゲットに対するペプチド候補化合物の同定・最適化を実施いたします。当社は、RI-PDCの前臨床試験における化合物評価の前半までを実施し、その後はGenentech社が開発および商業化を実施いたします。また、当社は本契約下で創製されるRI-PDCの日本における開発および商業化の権利を有します。本契約に基づき、当社はGenentech社から契約一時金として40百万ドル(約59億円*)を受領いたします。また今後、開発、承認、販売マイルストーンフィーとして10億ドル(約1,477億円*)を受け取る可能性があります。さらに当社は、製品化後の日本国外(日本国内は当社グループによる販売を想定)における正味売上高に応じて段階的に比率が定められた売上ロイヤルティを受領する権利を有します。

*1ドル(USD)=147.7円として計算

2 Novartis社とのペプチド-薬物複合体(PDC)の共同研究開発におけるマイルストーンを達成

2023年10月、Novartis AGとのペプチド-薬物複合体の共同研究開発に関する契約に基づきマイルストーンフィーとして7.5百万ドル(約11億円*)を受領したことを発表いたしました。

*1ドル(USD)=149.5円として計算

3 放射性医薬品の一つ目の自社プログラムにおいて開発候補化合物の選定および臨床入りに向けた準備を開始

2023年11月、自社での研究開発から創製された放射性医薬品プログラムから自社プログラムとして一つ目の開発候補化合物の選定が完了し、ヒューマン・イメージング試験およびIND申請に向けた試験の準備を開始したことを発表いたしました。本開発候補化合物(PD-32766)は、新規の医薬品として、Carbonic Anhydrase IX (炭酸脱水酵素、以下「CAIX」)に対して選択的に結合するペプチド-放射性核種複合体(RI-PDC)です。CAIXは、炭酸脱水酵素ファミリーの一種で、腎細胞がん(RCC)、膠芽腫、トリプルネガティブ乳がん、子宮がん、大腸がん等の様々な固形がんで見出していることが知られています。また、第1相臨床試験の実施に先立ち、患者さん体内での局在の検証等を目的としたヒューマン・イメージング試験を2024年前半に実施することを計画しています。

4 国立がん研究センターとCarbonic Anhydrase IX (CAIX)を標的とするがん放射性医薬品の早期実用化に向けた臨床研究等の取り組みを開始

2023年11月、Carbonic Anhydrase IX (CAIX)を発現する固形がんに対する診断薬および将来的な治療薬の開発に向け、国立研究開発法人国立がん研究センターとCAIXを標的とする放射性医薬品の早期実用化に向けた臨床研究等の取り組みに関する契約の締結を発表いたしました。

5 ヤンセンファーマ社との創薬共同研究開発プログラムにおけるマイルストーンを達成

2023年12月、ジョンソン・エンド・ジョンソングループであるヤンセンファーマ社との間で進めている創薬共同研究開発プログラムにおいて、マイルストーンを達成したことを発表いたしました。当社は、2017年4月に締結された創薬共同研究開発契約に基づきマイルストーンフィーを受領いたします(金額は非開示)。また当社は、今後、本提携により創製されるすべての製品について、非臨床・臨床マイルストーンフィーおよび製品化後の正味売上高に応じたロイヤルティを受領する権利を有します。

6 当社連結子会社PDRファーマがアミロイドPET検査用イメージング剤「アミヴィッド® 静注」の保険適用を発表

2023年12月、当社連結子会社であるPDRファーマは、「アミヴィッド® 静注」(一般名：フロルベタピル(¹⁸F))が、保険適用となったことを発表いたしました。

7 リンクメッドとの放射性医薬品化合物⁶⁴Cu-ATSMの国内での開発・商業化に関する戦略的パートナーシップに合意

2023年12月、子会社であるPDRファーマとリンクメッドは、悪性脳腫瘍に対する放射性医薬品候補化合物⁶⁴Cu-ATSMの国内での臨床開発・承認申請・商業化に関する戦略的パートナーシップについて合意したことを発表いたしました。本パートナーシップでは、両社協働のもと、リンクメッドが主体となって⁶⁴Cu-ATSMの開発を進め、PDRファーマが主体となって国内での承認申請および商業化にむけた準備を進めてまいります。また、今後の開発・商業化において必要となるコストおよび製品上市後に得られる収益を両社間で分配いたします。なお、ペプチドリームはリンクメッドが直近に実施したシリーズA 関連資金調達において出資を行っています。

8 Bristol Myers Squibb社がRayzeBio社を買収

2023年12月、当社の戦略的提携先であるRayzeBio社が2023年12月26日(米国東部時間)にBristol Myers Squibb社によるRayzeBio社の発行済みのすべての株式を1株あたり62.50ドルで買い取る公開買付け(以下「本公開買付」)の実施に関する発表を行いました。2024年2月に、当社は当社が保有する普通株式1,163,579株の全部について本公開買付に応じる旨を発表し、同月に本公開買付が終了し成立したことについても発表いたしました。2024年12月期第1四半期においてRayzeBio社の株式売却対価として約109億円*を受領する見込みです。当社の連結会計(国際会計基準)においては、2023年12月期の連結損益計算書においてその他の包括利益として時価評価額の増加分が反映されており、2024年12月期の連結業績への影響は軽微です。

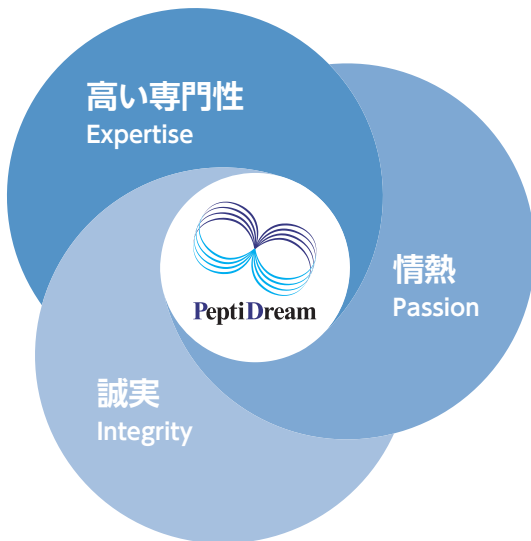
*1ドル(USD)=150.37円として計算

Topics 1 人的資本経営を促進

「高い専門性・情熱・誠実」の3つのバリューを柱とする10の行動指針を制定

当社は、「医療のあり方や患者さんの人生に変革をもたらす次世代医薬品の創出」というミッションのもと、その実現に向けた価値向上サイクルの基盤として人的資本は重要な資本であると認識しています。人的資本の価値を引き出すための人的資本経営を促進するため、10の行動指針を制定し全役職員で共有することで、コーポレートカルチャーとしてバリューや行動指針が根付いた人・組織の実現を目指しています。

ペプチドリームにおける10の行動指針 (Valued Behaviors)



高い専門性 Expertise

- ① サイエンスに対して謙虚な姿勢を大切にし、曇りない眼でファクトと対峙する (Be humble, openminded, and driven by facts)
- ② 簡潔で筋道の通った考えを大切にし、周囲に対してスピークアップする (Think logically, value ideas, and speak up)
- ③ 常に学び続けることを大切にする (Keep learning, keep growing)

情熱 Passion

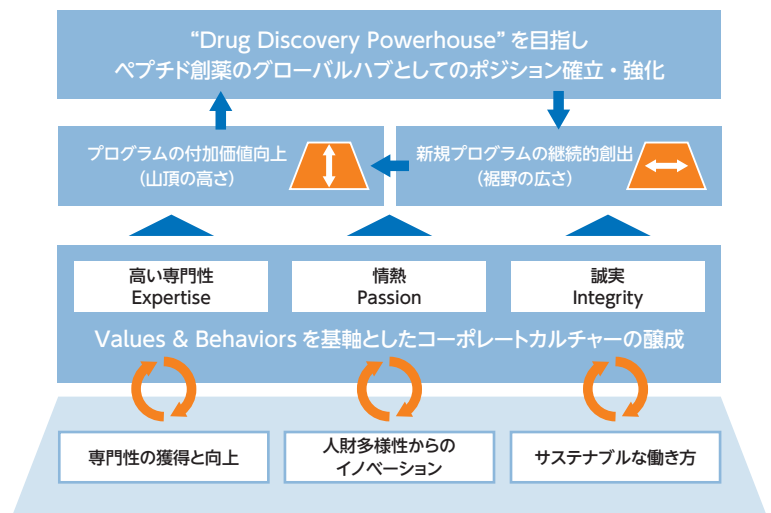
- ④ 自分たちの仕事の先に、世界のどこかで患者さんが待っている事を忘れない (Never forget the goal of our work is for patients)
- ⑤ 困難な課題でも、粘り強く道筋を考え努力する (Persevere in the face of challenges)
- ⑥ 失敗を恐れず、クリエイティブなリスクは積極的に歓迎する (Be bold, be creative, and don't fear failure)

誠実 Integrity

- ⑦ 周囲の人の善意を信じ、自らも善意に基づき行動する (Act with good intentions, and see the good intentions in others)
- ⑧ すべての課題にオーナーシップをもつ (Take ownership of any issues)
- ⑨ 失敗から学び、また自身の学びを共有することでチームの成長につなげる (Learn from your mistakes)
- ⑩ 互いの専門性や業務をリスペクトする (Respect each other)

人的資本の取り組みと価値向上サイクル

当社においてパイプラインの価値は企業価値の中核と言えます。パイプラインの価値を高めていくためには、当社が有するプラットフォームの強みを軸に、新規プログラムを継続的に創出し(裾野の広さ)、また各プログラムの付加価値を継続的に向上させていくこと(山頂の高さ)が重要な要素となります。この2つの要素を持続的に回していくためには、ペプチド創薬のグローバルハブとしてのポジションを確立し強化し続けていくことが鍵となり、これを実現していくためには、上記のバリューが根付いた協働の場を環境として整え、また組織全体のコーポレートカルチャー醸成につながる形で人的資本の向上に資する取り組みを進めていくことが重要と考えています。



Topics 2 羽賀選手が出場した世界大会で 車いすラグビー日本代表が 銅メダルを獲得

2023年10月フランス・パリ開催され、世界ランキング上位8チームが参加する「International Wheelchair Rugby Cup Paris 2023」で日本代表が銅メダルを獲得しました。

羽賀選手も出場し、メダルの獲得に向けて活躍していました。メダルの写真は羽賀選手に撮影していただきました。



会社の概要

設立	2006年7月
資本金	3,956,738,000円
事業内容	創薬開発事業、放射性医薬品事業
本社	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-23 TEL (IR広報)044-223-6612
主要取引先	小野薬品工業(株)、参天製薬(株)、塩野義製薬(株)、 大鵬薬品工業(株)、武田薬品工業(株)、 Alnylam社、Eli Lilly社、Merck社、Novartis社

役員の状況

代表取締役社長 CEO **リード・パトリック**
NRSA 研究員、国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター特任助教授、
同大学国際・産学共同研究センター客員助教授及び特任助教授、当社常務
取締役研究開発部担当を経て、現任

取締役副社長 COO **舛屋 圭一**
三菱化学(株) (現田辺三菱製薬(株))、Novartis International AG, Head of PPI
Drug Discovery and Novartis Leading Scientist を経て、現任

取締役副社長 CFO **金城 聖文**
株ボストン・コンサルティング・グループ(BCG) パートナー&マネージング
ディレクターを経て、現任

社外取締役(監査等委員) **笹岡 三千雄**
大塚化学(株)探索研究所所長、同社常務執行役員を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **長江 敏男**
塩野義製薬(株)、アベンティスファーマ(株) (現サノフィ(株)) 執行役員、ヨーク・
ファーマ(株)代表取締役社長を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **花房 幸範**
青山監査法人を経て、アカウンティングワークス(株)設立代表取締役、アークラ
ンドサービス(株)取締役(監査等委員)を経て、現任

社外取締役(監査等委員) **宇都宮 純子**
長島・大野・常松法律事務所、宇都宮・清水・陽来法律事務所パートナー
を経て、現任

株式の状況

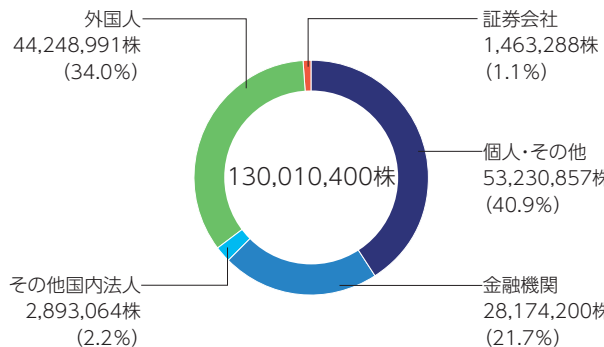
発行可能株式総数	342,400,000株
発行済株式総数	130,010,400株
株主数	30,690名

大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 (信託口)	15,031	11.56
窪田 規一	12,987	9.99
菅 裕明	11,942	9.19
日本カストディ銀行 (信託口)	10,831	8.33
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM	4,417	3.40
村上 裕	4,377	3.37
リード・パトリック	4,190	3.22
TAIYO FUND, L.P.	3,705	2.85
TAIYO HANEI FUND, L.P.	2,878	2.21
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227	2,464	1.90

(注) 持株比率は自己株式(247株)を控除して計算しております。なお、自己株式の数には、株式給付信託の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式402,400株は含まれておりません。

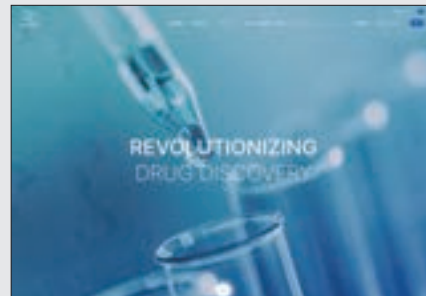
所有者別株式分布



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当を行う場合 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 取次所: 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。当社の公告掲載 URL は次のとおりであります。 https://www.peptidream.com/

ホームページのご案内



<https://www.peptidream.com/>

ペプチドリーム

検索



ペプチドリーム株式会社

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-23
TEL (IR広報)044-223-6612

<https://www.peptidream.com/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。